

「数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラムに関する自己点検・評価」

到達目標「Society5.0に対応できる情報基盤教育の構築」において、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に関連する活動に関する自己点検・評価結果を示す。

- ・評価日 2024年5月21日
- ・評価組織 情報処理委員会（内 自己点検評価委員会）
- ・評価対象 2023年度の基礎科目 情報処理の取り組み

- ・評価基準【S・A・B・C】
- S：計画・目標以上の成果（又は効果）を上げられた。
- A：計画・目標どおりの成果（又は効果）を上げられた。
- B：計画・目標どおりではないが、ある程度成果（又は効果）を上げられた。
- C：計画・目標とした成果（又は効果）を上げられなかった。

自己点検・評価の視点	取り組みと評価	評価結果
1. プログラムの履修・修得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次科目である「基礎情報処理」は、全学部において必修科目であり、入学者全員の履修を実現できた。 ・「基礎情報処理」の継続科目として提供している「AI入門」は12学科、「データサイエンス入門」は10学科にわたり、文理を問わずに履修されている。また95%以上が単位取得できている点から良好な履修状況と評価する。 ・そのほかの選択科目の履修においても、「ICT活用Ⅰ」、「ICT活用Ⅱ」、「ICT活用Ⅲ」、「ICT活用Ⅳ」、「ICT活用Ⅴ」、「ICT活用Ⅵ」は合計184名（2021年度62名、2022年度117名）と良好な履修状況であった。 	A
2. 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎情報処理」では、学生の履修環境や学修状況に関するアンケートを実施している。「今後も授業でプログラミングを学習したいですか」に「はい73%（2022年度70%、2021年度71%）」と良好な結果を得たことから、本プログラムの重要性が理解され、興味が高められたと考えられる。 ・基礎情報処理の履修後に履修可能となる「AI入門」、「データサイエンス入門」を継続的に提供している。今年度は「AI入門」は58名（2021年度36名、2022年度25名）、「データサイエンス入門」は30名（2021年度21名、2022年度18名）の受講者があり、大幅増となった。これは、「基礎情報処理」において、AIやデータサイエンスに高い関心を持ったからだと考えられる。 	S
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎情報処理」の学生アンケートの回収率は77%であり、十分に高いと評価する。 ・人工知能のプログラミング実習に関するアンケート項目において、「機械学習のイメージがつかめた」を「はい」とした学生が75%（2022年度73%、2021年度70%）と良好な結果を得た。データサイエンスに関するアンケート項目では、最も高度な課題に対して「できた」が72%、「ある程度できた」まで含めると94%と良好な理解度を示す結果を得た。 	S
4. 後輩等他の学生への推奨度	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎情報処理」は全学部の入学者に対して必修となっている。これにより推奨度に関わらず全学部の初年次から履修している。また、同科目の中で選択科目の履修を推奨している。 ・2021年度から開始した学内認定制度である「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」においても、継続して学科の文理を問わずこの条件を満たそうとする学生がいることが確認された。これにより本学の数理・データサイエンス・AI教育を学生へ推奨できていると評価する。 	S